海外獣医大学の卒業生の方に Interview！②

渡邉　桃子 先生

（2020 年　イギリス・Royal Veterinary Collage　御卒業）

お忙しい中インタビューに答えてくださりました。ありがとうございました。

◆まずは渡邉先生のご経歴について教えてください！

出身は福島県で、福島県の小学校で学んだあと、2011 年、中学 2 年生の夏に単身イギリスへ渡航しました。その後、中学校にあたるインターナショナルスクールに 2 年間、さらに高校に 2 年間通い、2015 年に Royal Veterinary Collage （RVC）に入学しました。そして 5 年間 RVC の獣医学部で学び、今年の 6 月に大学の卒業試験に合格して獣医師免許を取得しました（イギリスは獣医師の国家試験がありません）。現在は日本に帰国していて、今後動物看護師としてアルバイトで働きつつ 2022 年 2 月の獣医師国家試験に向けて国家試験の勉強や TOEIC の受験などを目指していこうと過ごしている最中です。

◆どうしてイギリスで獣医師を目指そうと思われたのでしょうか？

小学生の頃から英語を習っていて、比較的英語は得意なほうでした。一度イギリスに旅行したことがあり、その時に「将来留学してみたいなあ」という漠然とした思いを抱えていました。そんな中、東日本大震災があり、自宅は津波などの直接的な被害は受けなかったのですが、原発事故等もあり県外の安全な場所へ家族で引っ越しをしようという話になりました。その時に、この機会に留学したいという思いを伝えたところ、家族の理解も得ることができ、英語圏で過去行ったことがあり比較的安心な国としてイギリスに留学することを決意しました。

次に獣医師を目指した理由ですが、小さいころからペットも飼っており、動物は好きでしたが、2011 年に渡航した当時はまだ獣医師を目指そうとは思っていませんでした。イギリスの中学校・高校は科目を自分で選んで学習することができるのですが、そこではほとんど理系科目を選択していて、そのような流れで、中学校を卒業するころに獣医師という職業を自分の進路として意識するようになりました。

◆Royal Veterinary Collage に入学するためにされたことや、大変だったことは何ですか？

RVC に入学するにはまず高校の成績評価や推薦文などの書類選考があり、それを通過すると面接を受けることができ、面接をパスすると仮合格となります。高校最後の年の 5 月ごろに高校卒業資格を得るための全国試験があり、それにも合格するとようやく正式に大学に入学することができます。

書類選考を受けるためには、高校生の間に、動物病院や牧場、動物園など動物に関係する場所で最低 6 週間程度実習をしていることが必要な条件だったので、高校入学後からすぐに、長期休暇などのタイミングでイギリスや日本で牧場や水族館に実習に

行っていました。書類選考を通過した後の面接は 12 月ごろにあったんですが、面接の仮合格をもらえたのが 5 月ごろと非常に長くかかってしまい、RVC には落ちたと思い込んで、日本やオーストラリアの獣医大学も受けようかなと検討していたところだったので非常に大変でした。(笑)

◆イギリスには浪人や再入学などのシステムはあるのでしょうか？

浪人はありますね！獣医学部に出願するためにも実習などが必要なので、高校の遅い時期に獣医師を目指そう！と思った人たちはギャップイヤー制度という、高校卒業後すぐに大学に進学せずにインターンなどを経験してから大学を目指す仕組みを利用して出願に必要な実習をしたりもしていました。

RVC の 1 学年は約 200 人程度なのですが、獣医学部以外の学部を卒業した後に獣医学部に再入学する人も 20 人程度はいて、そういう人たちは 1 年生の時に普通の学生が 1，2 年生で習うことを 1 年間で学習して、翌年から 3 年生に編入することができました。また、アメリカでは獣医師になるにはまず普通の 4 年制大学を卒業した後に獣医の大学院に入学する必要があるのですが、4 年制大学を卒業した後に獣医大学院に進学せずに RVC の獣医学部に入学するような人も多かったです。再入学で入学して、3 年生で突然新しく入ってくる人もいれば、途中で休学してほかの大学で学ぶなどする人、留年する人や途中で大学を辞めてしまう人も結構多くて、同じ学年の人全員のことをよく知っている感じではありませんでしたね。

◆留学前はどれくらいの英語力だったのでしょうか？また、留学を通じてどれくらい英語力は伸びましたか？

小学生の頃は、小学 6 年生で英検準 2 級を持っているくらいの英語力でした。英会話教室などにも通って委はいたんですが、留学して最初の頃はやはり全然聞きとれなくて苦労したのですが、最初のインターナショナルスクールではスペイン人の子とロシア人の子とルームメイトになり、いやでも英語を使う環境だったのでだんだんと慣れていきました。インターナショナルスクールを卒業した夏に日本に帰ってきたのですが、その時受けた TOEIC は 895 点でした。今はほとんどの日常会話や獣医療に関する会話もほとんど問題なくできるので、今度受ける予定の TOEIC で満点をとれるといいなと思っています（笑)。

◆RVC の学生の方の性別や人種、国籍の構成比はどのような感じでしたか？

女性の割合がとても多く、全体の 8 割から 9 割の学生が女性でしたね～。国籍の比率

は、現地のイギリス人の学生が 7 割程度で、2 割程度がアメリカ人の学生、残り 1 割がその他の国からの留学生といった感じでした。アメリカ人以外の留学生は、シンガポールやマレーシア、香港からの留学生が多く、日本人は学年では他にはいませんでしたね。白人の学生が多いですが、イギリス人でもインド系や中東系などの学生もいました。

◆RVC で学ばれたカリキュラムはどのようなカリキュラムですか？

RVC はロンドンの中心部とロンドン郊外にそれぞれキャンパスがあるのですが、最初の 2 年間はロンドン中心部のキャンパスに通って解剖学や生理学などの基礎系科目を学びます。RVC では一般教養科目はありませんでしたね。また、1, 2 年生の間にも、牧場や動物園、養鶏場などの学外の場所で合計 12 週間の実習がありました。学外の実習は自分で連絡を取って受け入れをしてもらわなければならず大変でした。

3 年生からはロンドン郊外、市街から電車で 20～30 分くらいのキャンパスに移って薬理学などの科目や臨床の基礎となるような科目、縫合や採血などの手技を学びました。4 年生は公衆衛生系の科目が多く、それと並行してより高度な臨床系の科目を学び、4 年生の 12 月にある進級試験に合格すると、翌年の 2 月ごろから 5 年生の 3 月ごろまでほぼ 1 年間、大学の動物病院などで様々な診療科を回りながら臨床実習を行うというカリキュラムでした。その他に、3 年生以降、自分でアポイントをとって動物病院で行う小動物・大動物の実習も 26 週間ありました。大学の試験は 1 年間に 1 度まとめて行われて、筆記試験以外にも口頭での試験がありました。

臨床実習では、麻酔科や ER（救急科）、一般/形成外科などの小動物の診療科が各 2 週間ずつ、また産業動物の臨床実習が 4 週間、馬の臨床実習が 4 週間などの必修の実習が 20 週間強あって、そのほかに自分で選択する診療科（眼科、神経外科、シェルターメディスン、皮膚科、循環器・集中治療、選択の産業動物実習など）が 6 週間あり、13 人くらいのグループで実習をしていました。

◆クラブやサークル活動、アルバイトはありましたか？

ロンドン中心部のキャンパスにいた 1 年生の時はテニスサークルに所属していましたが、半年ほどでやめてしまいました。イギリスの大学生は遊びに行くときはだいたいパブかクラブで、週 1 回 2 回と頻繁にクラブに行くのでそういうところで仲を深めることが多いですね。

1, 2 年生の間はアルバイトをやっている学生も多かったですね。私は日本食のレストランでアルバイトをしていたんですが、まかないで日本食が食べれることがとてもうれしかったですね。時給は日本と同じか少し高いくらいですが、家賃などは東京よりも

高いので大変でした。

以上が記事の前半となります！ぜひ後半もご覧ください！